

行政視察報告書

令和 5年 7月 19日

呉市議会議長様

呉市議会議員 院去裕

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

令和 5年 7月10日（月），11日（火），12日（水）

2. 調査項目

北海道 恵庭市 市と民間の複合施設「えにあす」について

北海道 苫小牧市 アニメツーリズム推進事業の取組について

北海道 札幌市 若者総合支援センターについて

3. 参加議員

林田 浩秋，梶山 政孝，渡辺 一照，田中 みわ子，
河原 初海，佐伯 航一郎，片岡 慶行，院去裕

4. 随行者

議会事務局 副主任 大下 慶

北海道恵庭市

■調査項目

市と民間の複合施設「えにあす」について

- ・調査対応者

恵庭市企画振興部 まちづくり拠点整備室 理事 岡田貴裕

- ・調査期日

令和5年7月10日(月) 14時30分～15時30分

- ・恵庭市の概要

人口 : 70,246人

世帯数 : 35,245世帯

- ・調査目的

官民連携(P P P)による公共機能集約化により、良質な公共サービスの提供やコスト削減、地域の賑わいづくりへの効果について知見を得る。

- ・調査内容

【恵庭市からの説明】

恵庭市では、ガーデンデザインプロジェクトを施策の横断的展開の一つに位置付け、都市計画マスタープランなどに示す「コンパクトなまちづくり」「賑わいのあるまちづくり」を具現化する事業を推進している。恵庭市総合戦略において、職・住・観光機能の拡充を図るための、コンパクトシティ、駅周辺の賑わいづくり、花のビレッジ、恵庭かわまちづくり事業、新住宅団地、工業団地の用途拡大の政策間連携の総称がガーデンデザインプロジェクトとなる。明治19年の山口県岩国・和木地方からの集団移住により本格的な開拓が始まり、札幌のベッドタウン、自衛隊の駐屯地がある町、ガーデニングの町として、住みやすいまち、住み続けたいまちえにわを推進している。

【質疑応答】

Q 「えにあす」整備に至る背景・経緯について

A 平成23年恵庭市都市計画マスタープランから始まる一連の総合計画において、「コンパクトなまちづくり」「賑わいのあるまちづくり」などを具現化する事業として、恵庭駅周辺における公共機能の集約と民間施設の誘致による「賑わいの創出」に向け、公共機能と民間機能を集約した施設を整備した。

- Q サードプレイス（第三の居場所）として、緊急時や地域活性化の拠点として、この施設が持つそれぞれの役割が恵庭市にどのような影響を与えているか。
- A 自宅、職場・学校以外の居場所づくりのため、駅と「えにあす」という2つの拠点の間で町の賑わいをつくることとした。恵庭駅周辺の「賑わい創出」として、施設利用者は56万人となった。学生・子どもの自習、市民の交流、おしゃべりの場としてサードプレイス機能を創出している。災害時における避難、地域FMによる情報発信機能を備えた。公共施設の床面積の削減、維持管理費の圧縮、大規模修繕リスクの軽減などの効果がある。
- Q 「えにあす」整備に関連して人口減少に対応されているため策定されている「恵庭市総合戦略」についてもご教示いただきたい。（特にこども・若者に対する視点や施策について）
- A 人口減少や少子高齢化が急速に進む社会情勢においても高い持続性を確保するため、短・中期的に取り組む基本的方向や具体的施策を策定している。基本目標に対しては、それぞれ具体的施策と重要業績評価指標（KPI）を設定し、施策の横断的展開を行っている。
- Q 施設の現状の課題や今後の展開などについて
- A 課題・・・複合施設に対する市民理解と丁寧な説明が必要である。駐車場の目的外利用など見られる。公共施設として施設管理水準の維持が重要である。今後の展開・・・PPPを基本とした公共施設整備の推進、公営住宅への展開（PFI事業）、他地区での複合施設整備の推進、民間活力の活用など。

【呉市での展開の可能性】

呉市は、呉市立地適正計画にもとづきコンパクトシティの実現に向けた取組を進めており、急速な人口減少が見込まれ、公共施設の集約化による効率的な運用やコスト削減が求められている。民間の持つ多種多様なノウハウ・技術を活用することで行政サービスの向上、財政資金の効率的使用や行政の業務効率化を図ることは重要であり、推進していく必要がある。ただ、島の多い呉市では、効率化だけでなく、地域にあった施策を考えるなど知恵を絞る必要があると思う。地域活性化や災害等の緊急時における拠点として活用できる可能性もあり、地域の実情を考慮しつつ、良いところは積極的に導入すべきと感じた。また、サードプレイス機能を創出する観点からの施設整備は必要だと思った。

北海道苫小牧市

■調査項目

アニメツーリズム推進事業の取組について

・調査対応者

苫小牧市産業経済部 産業振興室 観光振興課 課長 三橋大輔
苫小牧市産業経済部 産業振興室 観光振興課 主事 安達駿介

・調査期日

令和5年7月11日（火）10時00分～11時30分

・苫小牧市の概要

人口 : 167,399人
世帯数 : 91,131世帯

・調査目的

近年旅行者のニーズは、その土地ならではの体験や地域の人々とのふれあいを楽しむ旅へと変わりつつあるが、アニメツーリズムによる集客等の可能性について

・調査内容

【苫小牧市からの説明】

苫小牧市は新千歳空港、苫小牧港のダブルポート、王子製紙の苫小牧工場があり、ホッキ貝の漁獲量日本一の都市である。市内10ヶ所あるゴルフ場を使ったゴルフツーリズムなど平成28年2月に策定した苫小牧市観光振興ビジョンにもとづき、地域の魅力の有効活用、まちぐるみでの観光推進、新たな魅力づくりを理念に実行に移している。地域住民、インバウンド、関係者含めすべて観光に結び付けるような仕掛けを行っている。すべて縁やゆかりがあるものと考え、地域に合った観光をみんなで行うこととしている。そのためには、広報に重点を置いている。観光政策の目標は、金額ではなく、観光人数をメインにしている。宿泊は札幌市に流れる傾向にあり、地域の魅力の有効活用に加え、さまざまなイベントを行うことで観光客を呼び込んでいる。新たな魅力づくりのため、令和2年度からアニメツーリズム推進事業をスタートさせており、ゆかりのあるコンテンツを活かし、苫小牧市のアニメ聖地化を目指している。

【質疑応答】

Q アニメやゲームなどサブカルチャーを活かした観光政策の取り組みについて

- A 苫小牧市は通過型観光のまちであり、新たな魅力づくりとしてサブカルチャーを活かした観光政策を推し進めている。聖地巡礼と言われるアニメやマンガの舞台となった土地や建物、作品に関連する建造物、作家のゆかりの地を訪れることで、飲食や宿泊、グッズ購入など消費促進につながるような取組を行っている。
- Q 「ウマ娘」ブームの現状と課題について
- A 平成27年に競走馬のホッコウタルマエが苫小牧観光大使に任命された。苫小牧市のマスコットキャラクターであるとまチョップとゲームでコラボしたことで、Twitter フォロワー数が増加、観光案内所利用者の増加、とまチョップ関連グッズの売り上げ増加など反響はあった。ブームの見極めとともに観光ビジョンにもとづいた予算で事業展開を行う。
- Q 今後の取組展開について
- A 観光スポットの造成、コラボイベントの開催、グッズの制作・販売を行う。苫小牧市のアニメ聖地化を推進する。苫小牧市の認知度向上、新規客の獲得。リピーターの確保、聖地巡礼による苫小牧市の周遊率アップ、経済波及効果の向上に結び付ける。また、予算の範囲でゆかりのあるコンテンツとの新規事業・継続事業を検討していきたい。民間主導が盛り上がる。

【呉市での展開の可能性】

呉市も苫小牧市と同様、通過型観光のまちといえると思う。呉市へ観光に来ても、目的地を見たら広島市や宮島に移動してしまう傾向にある。例えば、アニメの聖地となれば、聖地巡礼による宿泊や飲食が消費促進につながり地域への経済波及効果が見込まれる。呉市が舞台になった長編アニメ映画「この世界の片隅に」が公開された2016年以降、呉市を訪れる観光客も増えた。呉市を舞台にした映画、呉市内で撮影されたドラマなどもあり、サブカルチャーを活かした観光政策はこれから重要となってくる。呉市においては、観光産業が呉市経済を支えていかなければならず、呉の歴史、呉の風景なども加え地域に合った観光を進めることが重要になると思う。地域住民、事業者、インバウンドなどみんなが同じベクトルで継続的に取り組み、一過性のブームで終わらせるのではなく、地道に広報を行っていくことが重要である。

北海道苫札幌市

■調査項目

若者総合支援センターについて

・調査対応者

札幌市子ども未来局子ども育成部 子どものくらし・若者支援担当
課長 引地志保

札幌市若者支援事業課 若者支援総合センター 課長 大水千広

・調査期日

令和5年7月12日（水）10時00分～11時30分

・札幌市の概要

人口 : 1,971,546人

世帯数 : 995,195世帯

・調査目的

若者支援総合センターの現地視察を通じ、取組内容や課題を聞き取り、呉市における子ども、若者の居場所づくりの可能性について検証する。

・調査内容

【苫小牧市からの説明】

札幌市若者支援センターができた経緯は、2008年のリーマンショック以降、雇用不安定な若者が増加したことから、2009年若者支援施設条例が公布されました。札幌市若者支援総合センターには、引きこもりやニートとよばれる39歳以下の若者など社会生活を円滑に営む上で困難を有する若者に対する総合窓口を設置している。総合相談窓口では、専門の職員が、相談者に合わせたサポート内容を判断し、コミュニケーション能力の向上プログラムなどによる支援を行ったり、就労支援機関や保険福祉機関等を紹介している。事業内容は、自立支援、交流の促進、社会参加への促進など若者がかかえるさまざまな課題に取り組んでいる。

【質疑応答】

Q 小若支援地域協議会や小若総合センターについて

A さっぽろ若者支援ネットワークを構築し、若者支援総合センター、若者活動センター、若者支援協議会の3つの施設、機能が連携している。引きこもり、ニート、発達障害など一人ひとりのあったプログラムの提供や就労や進学等自立に向けた支援を行っている。

Q 課題とこれからの取組展開について

A 学校では対象者の把握は可能であるが、センターに来館、相談できる若者は良いほうで、社会的自立のできない若者はまだいる。顔の見える関係づくりを意識している。

【呉市での展開の可能性】

呉市においても、引きこもりや社会的弱者に対する相談支援を行っている。重層的支援推進室において、従来の高齢・障害・子ども・生活困窮に加え複雑化した課題の相談にも取り組んでいる。引きこもりの実態調査を行い、社会的孤立が進まないよう支援機関との連携体制強化を図っている。政令指定都市である札幌市との比較は難しいと思うが、札幌市のように子どもや若者を切り口にして支援を行い、自立、社会参加させることは、呉市においても重要となってくる。対象者の事情もさまざま、実態把握や見える化を行い、社会参加できる人は放置するのではなく、公的機関や地域社会も含め、みんなで支援する体制づくりへの参考になると思う。